

## グッバイラヴタウン / 風博士

### 1. 避雷針

作詞・作曲 杉山拓

はじめは海のかなで ゆらゆら睡ってたんだ  
死ぬことも知らぬまま ただただ睡ってた

果てしなく 続くものだよ 命のつながりは

いつしか丘のうえで 独りで歩いてたんだ  
生きる意味を知って ただただ震えてた

果てしなく 続くものだろう？ 命のつながりは

昨今の現状でも流れて行く 淡い風  
究極の避雷針が君の胸に突き刺さる  
僕はもう溢れ出して吸い込まれるよ  
君の胸に 胸に

どうやら空の上で ゆらゆら睡ってるんだ  
身体が溢れ出す 僕はエレキテル

果てしなく続くこの空 命が踊りだすんだ

昨今の現状でも流れて行く 淡い風  
究極の避雷針が君の胸に突き刺さる  
僕はもう溢れ出して吸い込まれるよ  
君の胸に 胸に

ギター、歌 杉山拓

チェロ 黒田誠二郎

### 7. バラ色の人生

作詞・作曲 / 杉山拓

彼女は地に咲く花を探し拾い集める  
彼は空に咲く雲を望み歩き続ける  
ときおり涙す涙はちよとしたスパイスになる  
バラ色の人生

ギター、歌 杉山拓

ピアノ う平

チェロ 黒田誠二郎

### 2. ハートボイルド

作詞 吉岡史樹&杉山拓 / 作曲 杉山拓

寝坊で昼から予報は晴れ間の日曜  
きりのないちくちく 埋めてく君の寝息を

うつ伏せ閉じた目 手のうち見せない君と  
靴ずかしくらい青く突き抜ける日々を

コショウしそうなハート大切に抱え込み  
至近距離へと滑り込んで行く

茹であがった心は  
ホクホクと湯気と香りを醸す  
すっぱいレモンと甘い蜂蜜が  
腕のなかで溶けあう  
素晴らしい夢のほより  
座り込んで君の寝癖をほどく

茹であがった心がホクホクと

道草待ち伏せ無駄口たたいて行きましよう  
寝息の変わりにハーモニカ吹いてあげましよう

茹で感じた茹であがり ほどよく弾けとべ  
赤いトマトがもうとろけだす

使いかけの身体と心交じれ  
甘い蜜を生み出す  
茹であがった肌色染め上げてく  
逃さず絡むソース  
120℃で攻めるグラグラの  
上へ下へのダンス

こちら向いたドンダリ眼閉じて

ギター、歌 杉山拓

ギター 斉藤友秋

チェロ 黒田誠二郎

### 3. シャボン玉とばない

作詞 かづノ娘&ユース毛 / 作曲 杉山拓

蝉の音が変わる頃 シャボン玉から飛び出した  
僕の恋が終わる頃 煩わしい目覚ましの音

つないだ手はちぎって セメントにまぶそうかと  
片手回士の僕らは 袋開けたくて開けたくて

すずり泣き 雨 止まずに病んだ

空の色が変わる頃 お月様飛び跳ねた  
私の恋が終わる頃 瞬きの電燈 虫の声

緑色の時間は青色と黄色の幻  
一人投げるサイコロに三つ進んで一回休み

振り出しに戻る 振り出しに戻る

頬に風 見上げれば 屋根の向こう  
真っ赤な月が夜に穴開ける  
あの月に食べられる

シャボン玉飛ばない  
病んだ雨 止まずに

ギター、歌 杉山拓

ピアノ う平

グッバイラヴタウン / 風博士

2008年4月20日発売

企画 杉山拓

録音 あいのまちはうす (2008年1月、京都)

レコーディング・ミックス・ジャケット写真 斉藤友秋

デザイン 杉山拓

### 4. ふみきりまち

作詞 う平 / 作曲 杉山拓

なんかい電車までかけたら  
曇りの空はスクリーン  
夏の胴体から窓

三色刷りのスクリーン

線路ののって

夏はずれる

湯船の湯の栓は抜け  
曇りの空 水に没かる

ごうごうと反対向きに風がなる  
耳の先が寒い

でくのぼうは煤払い  
車掌さんはかくれんぼ  
座敷童のへその緒  
線路ののって夏はずれる

ぐるぐる回る  
回る様に笑う

夏の胴体から窓  
230円は距離  
間延びしたあくびが  
巨大な砂時計吊るす

ごうごうと反対向きに風がなる  
鳥になつてしまふ

ギター、歌 杉山拓

ピアノ う平

ドラブッコ 本田光

### 5. 空の上の歩き方

作詞 吉岡史樹&う平 / 作曲 杉山拓

生まれたときから履いている  
そのお気に入りのスニーカー

てくてく歩くよ 砂利のうえ  
すたすた進むよ 草のうえ

大地を踏みしめ 蹴り上げてみる  
お日様も 雨も 踏んでませませ

雲の上も歩けるはずだよ  
今日はその靴も履いでしまおう  
抱きかかえられた赤ん坊みたく  
靴は僕たちで洗っておくさ

雲の上歩いてみる

生まれたときから響いてる  
耳たぶ後ろにスピーカー

気分まかせて道しるべ  
出歩く前から眺ねてるさ

包んだ振り子で蹴り上げ花火  
そろそろ雲にも届くはずでしょ

空の上でまどろみはじめ  
今日はその先で浮かべていたい  
オゾンを歩いたアメンボみたく  
靴は僕たちで洗っておくさ

雲の上歩いて行く

ギター、歌 杉山拓

ブラス 本田光

### 6. 道行雨模様

作詞 吉岡史樹 / 作曲 杉山拓

その気取った帽子には異国の妻の想いが宿り  
その曲がったレールのつま先から空にのぼる

虹の巣から拾って来たばかりの  
パンタの根まがったここにひっかけた  
指差して笑った子にはみえてる  
ワインレッドの花の束

道行雨模様

爽快な 飛び交うツバメの流線型  
息継ぎだけでもういっぱいだ  
上昇気流に旋回中

道行雨模様

豪快な 行き交う疾風の9000系  
行き過ぎだけでもう了解だ  
通過駅はまだ増殖中

その気取った靴には故郷にある気が宿り  
この三つ又レールの行く先から空に上る

虹の車庫とらわれたばかりの  
パンダは王子の元へ帰した  
指差して笑った子には聞こえる  
ブロン色の早い笛

道行雨模様

爽快な 飛び交うツバメの流線型  
息継ぎだけでもういっぱいだ  
前照灯 二個 点灯中

道行雨模様

豪快な 行き交う疾風の9000系  
いつまでおいかけ放浪と  
途中下車はまだ進行中

ギター、歌、ドラブッコ 杉山拓

チェロ 黒田誠二郎